

実践 放射線管理セミナー の報告

測定支援委員会 九州労災病院 門司メディカルセンター 小原 幸隆

6月25日(土)九州労災病院 門司メディカルセンターにて、漏洩線量測定の見習いを開催しました。測定支援委員会が中心となり活動し16名の参加者でセミナーが始まりました。講義と実習は2部構成にて、まず、門司メディカルセンターの小原が受講者全員に放射線管理Ⅰとして、法令及び測定方法、記録の仕方、測定器の使い方及び管理など実習内容を中心について講義した後、4班に分かれ、講義班と実習班にそれぞれ行いました。講義では、放射線管理Ⅱその1にて、北九州市保健所の岡崎さんに災害派遣の体験談(福島サーベイヤー報告)について、実際に体験された貴重なお話を聴くことができました。その2では、新日鐵八幡記念病院の稲永さんにトピックス「ICRP2007年勧告について」、将来、医療法改正を視野に、わかりやすく講義して頂きました。実技1では、新小文字病院の茂呂田さん・北九州医療センターの貞末さんにて、一般撮影室の漏洩線量測定を20分程度、4名のグループ実習にて、測定手順の説明(ファントム・撮影条件の設定)、線量計の取り扱いを中心に 実測、測定結果の評価など行いました。実技2では、JR九州病院の長濱さん・済生会八幡総合病院の大野さんにて、透視室(連続)の散乱線量分布について20分程度、4名のグループ実習にて、測定手順の説明(ファントム・撮影条件の設定)、プロテクターを着用し、実測をしました。実習するにあたり、再度、サーベイメータを使用するあたり、測定する線量の特性を知ってそれにあったサーベイメータを使用すること、校正についての重要性、そしてサーベイメータの特性と取り扱いについて説明をして頂きました。次に、漏洩線量の測定点と測定データの処理、記録、散乱線量分布の測定など丁寧に説明して頂きました。時間が限られている中、実際に使用している測定点を参考に各ポイントを受講者全員が測定することができたこと有意義であったと思います。一般撮影時の漏洩線量測定なのでサーベイメータが振れることがなく、プロテクターを着て散乱線の測定を行っておられる方も見受けられました。最後に漏洩線量測定に関する質問事項について、北九州市保健所の岡崎さんに詳しくお答えして頂き、今後の管理において大いに参考となりました。セミナー終了後、受講終了書をお渡しして解散となりました。今後、北九州放射線技師会の保有するサーベイメータを会員のみならず広く知っていただき、活用していただければ幸いです。最後に、測定支援委員会として初めて取り組んだセミナーでいろいろと行き届かないところがありましたが、ご協力いただいた篠原会長をはじめ各施設のスタッフのみなさまのおかげで無事終えることができました。深く感謝いたします。